
持続可能な水産養殖のための種苗認証

Seedlings Council for Sustainable Aquaculture

(SCSA 認証)

審査報告書

クライアント名
学校法人 近畿大学

日付：2018年2月1日

認証機関名
ビューローベリタスジャパン株式会社

目次

1. クライアントに関する情報	3
2. 審査機関に関する情報	4
3. 審査結果要旨	5
4. 全般的な所見	6
5. レビュー及び認証決定プロセス	8
6. 推奨する今後のプロセス	8
7. 付属書	8
8. クライアントレビューフィードバック	8

1. クライアントに関する情報

クライアント名	学校法人 近畿大学(契約番号 4159378)
クライアント ID	
所在地	大阪府東大阪市小若江 3-4-1
認証範囲	<p>【メンバー1】 近畿大学水産養殖種苗センター</p> <p>【活動】 人工種苗生産・養殖場</p> <p>【拠点】 白浜事業場 和歌山県西牟婁郡白浜町 1-5 すさみ事業場 和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見4578-1 大島事業場 和歌山県東牟婁郡串本町大島 1790-4 浦神事業場 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町浦神 604-12 奄美事業場 鹿児島県大島郡瀬戸内町花天 195</p> <p>【メンバー2】 株式会社アーマリン近大</p> <p>【活動】 人工種苗生産・養殖場・流通</p> <p>【拠点】 本社 和歌山県西牟婁郡白浜町 1-5 大島事業所 和歌山県東牟婁郡串本町大島 1790-4 浦神事業所 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町浦神 468-3 奄美事業所 鹿児島県大島郡瀬戸内町花天 195 戸津井漁場 和歌山県日高郡由良町戸津井 須賀利漁場 三重県尾鷲市須賀利町</p> <p>【メンバー3】 山野三十四</p> <p>【活動】 人工種苗生産</p> <p>【拠点】 鹿児島県肝属郡南大隅町間泊</p>
認証魚種	<p>マダイ Japanese red seabream (Pagrus major)</p> <p>シマアジ White trevally (Pseudocaranx dentex)</p> <p>クロマグロ Pacific bluefin tuna (Thunnus orientalis)</p> <p>ブリ属 (ブリ・ブリ交雑種・カンパチを含む)(Seriola)</p>
会社概要	<p>学校法人近畿大学は、大阪府に本部を置く学校法人である。奈良、和歌山、広島、福岡にもキャンパスを持ち、有数の学部・学科数ならびに在校生・卒業生を有する大規模な私立大学である。</p> <p>近畿大学水産養殖種苗センターは、1970年に種苗生産の拠点として白浜町に設立され、漁業協同組合と協力し種苗生産を行っており、その後施設を拡充してきている。近畿</p>

	<p>大学水産研究所が培ってきた養殖技術を産業化し、地元はもとより広く日本の水産業と食料の供給に貢献すべく様々な魚種の稚魚および成魚の生産事業に取り組んでいる。</p> <p>アーマリン近大は、稚魚・成魚の販売を担う近畿大学のベンチャー企業として 2003 年に設立された。販売のみならず、海上の区画漁業権を得て、海上での種苗生産と成魚の育成も行う。加工品の生産・販売、また飲食店舗の経営も行っている。</p>
--	---

2. 審査機関に関する情報

審査機関名称	ビューローベリタスジャパン株式会社
所在地	神奈川県横浜市中区日本大通 18 番地 KRCビル 8F
審査チーム	
佐久間 千恵子	主任監査員
家弓 哲彦	研修審査員
菅 佳和	研修審査員
審査日	2018 年 1 月 9 日(火)、10 日(水)、11 日(木)、12 日(金)、13 日(土)、16 日(火)、17 日(水)、18 日(木)、19 日(金)、20 日(土)
審査の種類	初回審査

3. 審査結果要旨

審査規格	持続可能な水産養殖のための種苗認証(SCSA 認証)原則と基準 Ver1.3
結果	
重大な不適合	重大な不適合 0
軽微な不適合	軽微な不適合 3 1) 1.2.2 認証機関への DNA 鑑定用サンプル提供手順が文書化なし→提出済み 解除 2) 7.1.4 モニタリングの手順が不明瞭→改定提出済み 解除 3) 7.1.5 レビューの手順が不明瞭→改定提出済み 解除
条件付合格	条件付合格 2 1) 5.1.4 衛生管理研修 山野氏へ未実施→2月に実施予定 2) 6.1.2 安全衛生研修 山野氏へ未実施→2月に実施予定
観察事項	観察事項 5 1) 2.1.1.1 海上施設でのロットの明確な識別表示→実施に向け検討開始 2) 2.1.2.2 海上施設でのロットの明確な識別表示→実施に向け検討開始 3) 2.3.1.6 期限切れ医薬品の在庫扱い手順明文化→明文化予定 4) 2.3.2.6 期限切れ医薬品の在庫扱い手順明文化→明文化予定 5) 3.2.1.2 水質数値数位の要観察地域あり(白浜、浦神、須賀利)
認証単位	認証範囲参考
所有の動き	- 近畿大学所有の受精卵あるいは購入した受精卵らの種苗生産 → 種苗販売 - 種苗生産 → 養殖 → 成魚販売 - 加工品購入 → 加工品販売
CoC への接続点 について	種苗の販売…育成した種苗の販売 トラックでタンクによる納品、あるいは活漁船による納品 成魚の販売…育成した種苗を養殖した成魚の販売 活漁船で顧客の生簀あるいは水槽へ納品、あるいは締め処理後梱包して納品

4. 全般的な所見

全般的な所見	
I. 種苗生産者、養殖業者に対する原則と基準	
1. 種苗	<p>近畿大学水産養殖種苗センター(以降近大種苗センター)および認証範囲に含まれる事業者では、近畿大学の種苗のみを使用し、種苗生産、養殖を行う。</p> <p>要求事項にある生産履歴を「ネットワーク」と呼ぶサーバーシステムに、魚種・飼育地、ラウンドごとに分けて時系列でデータを記録している。水槽、生簀の分割、統合、死亡魚数も記録され、近畿大学の種苗が他と混在することなく管理されていることを確認できる体制であり、生産履歴提供が可能であった。</p> <p>親魚の DNA 鑑定のためのサンプル冷凍保存を開始し、サンプルの詳細情報はシステム管理のうえ、サンプルに貼付を行っていた。認証機関の要求に応じサンプル提出が可能な状況であった。</p>
2. 対象人工種苗飼育管理	<p>種苗生産、養殖とも、先述のように魚種、飼育地、ラウンドごとに管理がなされ、全ての記録がネットワークに入力管理されている。水槽、生簀の分割、統合も明確に管理され、最新の情報が常にネットワークで把握できる状況である。死亡魚数を含め、尾数情報も記録されている。他の種苗生産者からの種苗購入は行わないため、種苗生産から養殖に移行する段階での尾数増減はない。常時正しい情報記録をするため、これまでは随時情報修正を実施してきたが、認証要求事項に基づき情報修正の手順も構築した。</p> <p>水産用医薬品の使用は、極力抑える方針である。魚種、拠点、時期等により必要な医薬品は異なるが、全ての医薬品・ワクチン使用は近畿大学として認めた物のみを使用することとしている。農林水産省、水産試験場その他の最新情報に基づき、使用する医薬品を確認、決定している。</p> <p>水産用医薬品の購入、投薬記録も、ネットワークに全て情報が入力されている。医薬品は、施錠可能な保管庫にて保管している。使用期限切れの医薬品は、適切に隔離保管され、専門業者による引取りがなされ、記録が保管される。</p> <p>逃亡管理として、魚種により蓋網、垣網の使用、潜水土による網破れの確認、台風への備えなどがなされていた。不明魚率はマダイ、シマアジ、ブリ属は要求事項を下回り、問題のない管理状況を維持していると判断できる。クロマグロは、現状は不明魚率要求事項を超えているが、具体的な対策が提示され、適切な施策であることを確認した。</p> <p>種苗育成から養殖、出荷に至るまで、ストレスや損傷を極力抑え、魚類福祉の考え方をもって適切な環境での飼育を実施していた。</p>

3. 環境配慮	<p>当該事業者は、陸上種苗生産施設と海上での種苗生産ならびに養殖施設を持つ。陸上施設の排水の水質調査は実施されており、適切な排水処理がなされていた。</p> <p>海上における水質調査はすでに一定期間実施されている。白浜、浦神、須賀利の一部の海域において、COD 値が時期により適正範囲を超えることが発見された。白浜は尾数計測を行う拠点であるため、養殖魚への影響はきわめて限られると判断できる。浦神は近隣の養殖施設の影響が考えられ、今後は使用頻度や時期を検討しているとのことであった。いずれの拠点についても、数値を継続的に観察し、適切な飼育環境が維持できないと判断した場合には対応が必要である。</p> <p>死亡魚の処理は、廃棄物処理事業者への委託、漁業協同組合への持込など事業所により方法が異なるが、いずれも地域で適切な方法を選択し、実施している。</p>
4. 飼・餌料	<p>飼料、生餌は、魚種や成長段階により判断し、飼料供給先から購入している。購入記録ならびに給餌、栄養剤等の情報はネットワークに記録されている。</p> <p>陸上種苗生産施設がある拠点においては、生物飼料の培養を行っている。すさみ、大島、浦神には生物飼料屋外培養施設があるが、いずれも和歌山県に所在し、外出制限は発せられていない地域である。</p>
5. 食品安全	<p>水質管理は、自治体や水産試験場が公開するものを確認している。</p> <p>「衛生動物対策に関する指針」に基づき、防虫防鼠対策を講じ、衛生的な飼育環境を維持している。</p> <p>投薬、休業は法に基づき実施し、記録は全てネットワークで確認が可能である。</p> <p>安全衛生教育が従業員になされ、適切な理解がなされていることが確認できた。しかしながら、サイトメンバーに含めている個人種苗生産者には、衛生管理の教育が不十分であった。2 月に教育訓練実施の予定を確認したため、条件付合格とした。</p>
6. 安全衛生・労務管理	<p>「安全に関する指針」を持ち、安全衛生責任者を指名している。安全衛生委員会も実施され、労働災害事故の共有や注意の発信を実施している。</p> <p>労働災害が 2017 年に 3 件発生しているが、いずれも適切な対処がなされ、再発防止のための策も適切であった。</p> <p>労働環境も全般適切に管理がなされている。児童労働、強制労働、拘束、差別などもなく、ハラスメントに対するしくみも構築されていた。</p>
7. 社会経済的側面	<p>法令順守の下、地域社会や利害関係者と良好な関係を維持し、種苗生産、養殖事業を実施している。行政や地域への協力も積極的に行っている。</p> <p>組織内においても、SCSA 認証取り組みの意義を強く示し、組織全体で積極的な取り組みが見られている。</p>

その他	
近畿大学の認証制度管理責任者ならびに担当者は、特定非営利活動法人持続可能な水産養殖のための種苗認証協議会(SCSA)の事務局業務を兼務している。しかし、SCSA 認証制度は理事会、パブリックコメントを経て構築されていること、第三者機関が認証審査を実施していることから、認証制度の公平性、透明性は担保され、業務兼務による認証決定への影響はないと判断する。	

5. レビュー及び認証決定プロセス

審査レポートの確認と認証決定	
クライアントレビュー	2018/2/1 終了
ピアレビュー	2018/2/2 終了 三重大学 鈴木幸子氏
パブリックコメント	2018/2/2-2018/2/8 終了 問い合わせ 0 件
認証決定	2018/2/8 佐藤 賢也
認証有効期限	2023/2/7

6. 推奨する今後のプロセス

推奨する今後のプロセス	
初回審査	2018 年 1 月実施
第一回年次監査	2018 年 11 月～2019 年 1 月に実施
第二回年次監査	2019 年 11 月～2020 年 1 月に実施
第三回年次監査	2020 年 11 月～2021 年 1 月に実施
第四回年次監査	2021 年 11 月～2022 年 1 月に実施
再認証審査	2022 年 11 月～2023 年 1 月に実施

7. 付属書

付属書	
付属書 1: 原則と基準チェックリスト(チェック結果)	

8. クライアントレビューフィードバック

2018/2/1 近畿大学フィードバック	
【近畿大学】 レポート、チェックリストの表記誤りの修正依頼(詳細はチェックリスト記録参照)	
【BVJ】 レポート、チェックリストの表記修正	